

繪本豊臣勲功記

三編 貳

遠13
2209
22



13
2209
22

繪本豊臣勲功記三編二之卷

目録

義昭任將軍秀吉衛京都

馬之好再起

將軍家合戦六條本國寺

馬竹中謀敵



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

本下奇兵烈敗之好大軍

属信長草紙

本下智計說堺民補送營

属同鎮宣嘩



繪本豊臣勲功記三編卷之二



江戸 八功舎 徳水刑補

義昭任將軍秀吉衛京都 属之好再祭

智恵ある者の偽多しといふ也。偽中小信あり仁義あり豊公計偽

着難し根元は忠孝なり道小信く此偽とることを遂小京都の衆民を安途

るにめたり偉は是亦下ヶ一個の功あり情大あることを言説く。こまかしく新

公方家沖系内ありて。信長考関小及び。同月十八日義昭君志

内あり。従四位下小叙せらる。系議た近湯中將小任。征夷大將軍小補せられ

たり。次小信長を昇殿せしめ。たを湯督小任せしむ。漸氣色ありしとも。信長

固く稱せしむれば。終小従五位下小叙せらる。彈正忠とを任せらる。時人皇

百七代西親町院の沖を位なり。然とも近幸らち續き。戦國の中を是ハ

豊臣日記三編卷之二



内裏の探々懇紫宸清涼の宮殿も傾倒するを憂ふと造營の用途漸
 心小まらせむ増くやと公九弼殿上人の居處をんどのかひひらきてを
 り。本下秀吉此懸せりし時。懐勿体多し好松永。自己依が榮耀ふる
 金銀色杖と費せども十善法君の所座成公弼達の堂房館舎彩をう小
 荒廢せしと余亦小のん喜みてこそまをも圍つ陣の懸をよ先徳同殿を勸
 めまあらせ。内裏を細公の達の宮居を修復せよとて。此事を言出
 つる小信長發中もとおがとこそなほとも容易あらざる。大企をなす。願ひ
 小延引せらる。當時公弼の困窮を助ることも援助を。と信長叙爵の
 悦賀の帰宮の結禱と稱。月弼雲密を招請ある小斯を替へて信小
 こそと請小應とて急命せらる。信長既小將軍家の假法所所小急と。全
 くは遠所所小おわく。僅にたれ首を掃とせざるが。頼小所ゆる。これ首しうば。

同日廿二日。二條園白方大臣晴皇公と初め急せ。殿上殿下雜式まで残る
 隅々く近請あり。位階小準とく座次を整らる。將軍家も出席せし。山
 の千美海の万籟百果の堆盛百香味の眼耳鼻舌を湯をむり。餐應の
 品小難う。既小七軸の巻を勸めんとする。向小除く。贈賂の種とを料足はて
 陣軍たる。座上の公弼こそ小まらとく。信長の仁義信徳と深く感とる。あ
 れび當日の申を報と後各々酒宴を辞し。終る。最頼母く退出しけり。
 諸も翌日將軍家の入洛あり。小將軍宣下の所悦せ。急先さたると思ひ
 る。親せとてと所あり。能無行の儀を僅し。こそ近務骨碌とて平
 治の功を達する人。恩をせん。有とて。所御出。同日の廿三日。あまを
 行ふ。明日廿四日の朝。信長御玉の準備せらる。所報請小出仕。これに
 將軍家と。信長を惜むを至ひ寸志の所苦耐ある。とて。所慮状を

中へ公儀を以て頼朝と申す。頼朝は中へより上へ下へとも小秀吉と共々天神の如く
 小讃嘆しぬ。然れども日本中の千人と曰ふ小部也。五百人宛船合せ内裏に候
 所前とて守護をなさる。残る千人と清水小苗と。武備調練せしむる。外
 洛中洛外もや。重宿も倦む。巡檢せしむ。法令嚴あり。六夜宿。宿の愁
 らく。千門万戸の家業とて。上へ下へより。下へ上へ。小部も。始々安途の思ひ
 とあり。執事若き。元満と。願を聞き。好言の松河の地を。清水と。四國小
 遊下ると。いふ。皆懐き。言ひし。く。如おもさ。遠恥辱を。清水と。和
 後。區を。あり。る。が。所。力。あり。や。相と。頼。を。奉。り。し。義宗君。ハ。早。世。ほ。く。當。將。軍
 小ハ。河。能。書。り。さ。る。去。り。ら。い。ふ。も。して。信長。を。執。果。せ。義。昭。公。と。て。好。く。奉。り。し。奉
 後。守。護。せん。り。の。と。辭。後。を。定。め。細。作。と。り。て。京。都。の。宮。子。を。圍。を。る。後。小
 信長。ハ。弟。濃。小。海。國。一。義。昭。公。ハ。弟。桑。有。る。本。因。寺。小。河。原。に。し。く。も。護。れ

若士も僅あり。と。若士。小。若。成。主。税。助。權。耀。と。て。執。統。と。是。を。天。授。の。記。に
 来。り。れ。寺。院。小。立。を。を。法。構。の。末。座。へ。不。意。小。推。進。將。軍。と。自。軍。小。取。執。と。て
 たり。京。都。の。地。小。將。交。り。松。河。の。國。を。棄。返。し。織。田。と。唯。雄。と。争。ん。と。松。河
 小。推。進。の。自。方。の。勇。士。を。集。り。小。當。國。小。解。舟。と。り。矢。野。和。泉。水。也。同。伯。耆。古。條。系
 言。蕃。允。吉。成。忠。助。加。治。權。之。助。佐。田。泉。女。也。山。本。十。兵。衛。宗。良。友。を。依。次。者。と。し
 小。池。集。り。一。萬。余。人。の。軍。勢。と。あり。る。由。一。若。成。公。也。小。増。と。依。り。遠。上。ハ。所。時。も。早
 く。叢。向。と。し。と。陣。徇。り。一。秘。孫。龍。與。長。井。集。人。と。先。陣。と。し。後。山。原。城
 也。若。成。公。也。軍。南。小。泉。別。り。京。原。の。城。之。好。義。能。の。和。泉。小。寺。町。を。攻。拔。城。中
 也。自。地。小。生。害。を。さ。諸。軍。の。所。と。た。め。を。と。據。の。津。小。推。進。と。り。の。二。月。八。日。然。る。小
 場。の。町。人。輩。ハ。之。好。一。家。と。暮。居。り。も。諸。軍。勢。を。請。請。得。り。寒。氣。を。補。治。醜
 美。天。可。憐。小。池。集。り。と。り。之。好。の。軍。勢。大。小。部。び。益。して。全。く。列。部。也。此。歲。除

日中より西に此地小わいて我軍を。昭和三十二年正月二日の外は、
堀の津を進發せしむる岩成を税助の直地小京都へ上らん事を指揮して
軍を進めんをれども、この日向も同じ野守の通小娘坂偏執して、
進を待た、當天を河引（礼介）義継が領分を放火せし、この日、
小撃茶四日の暮、小かよふ頃、東福寺小陣を破り、本圓寺の曉、
秋月彌ら推進んと隊伍を立てて、後よりけり。

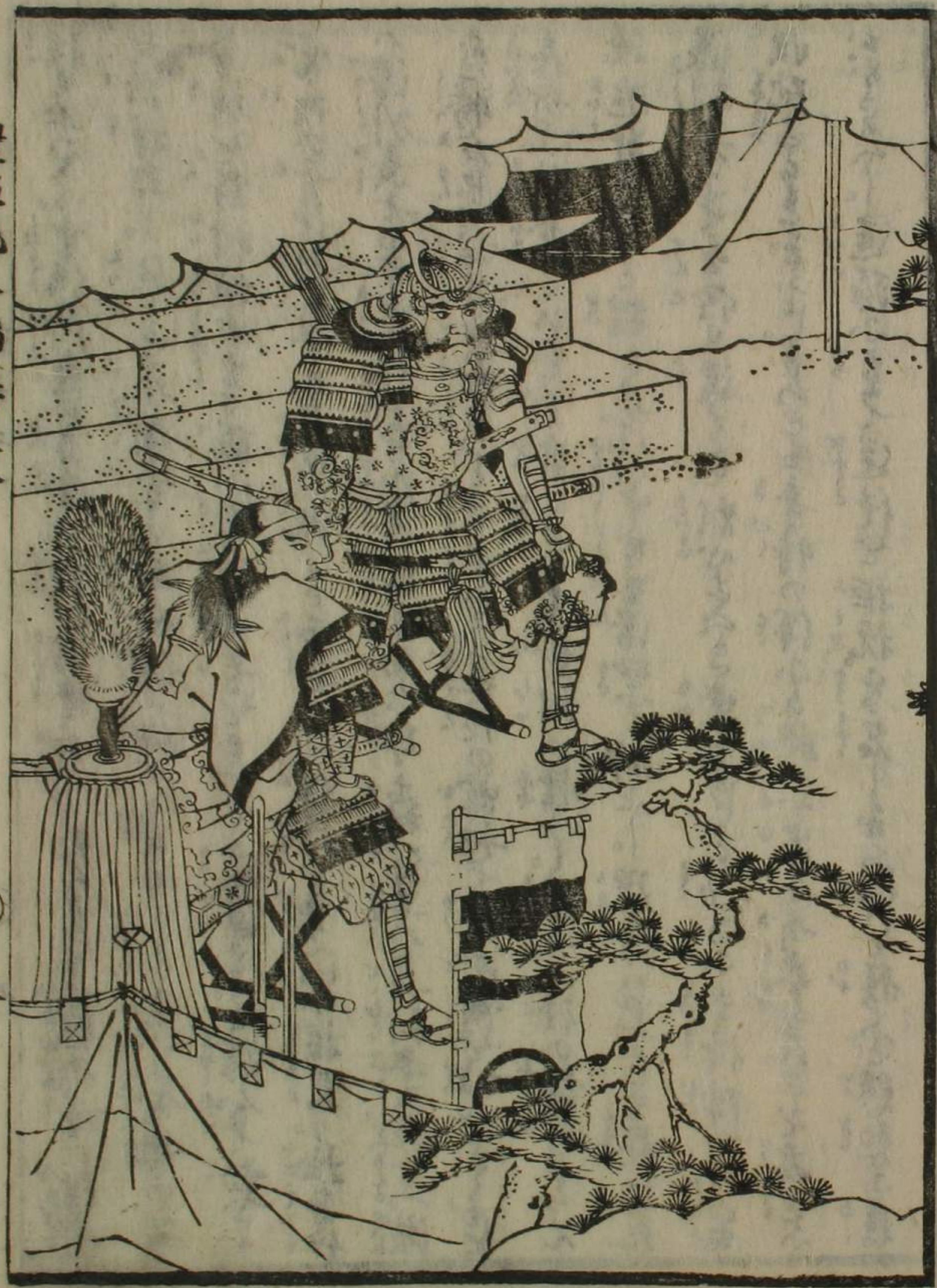
將軍家へ、茶本圓寺合戦、厲行申謀款

虎の雨が猛を愛して、終小を體と久くや、然るに、この好家の奮勇士、岩成
之税助好通ハ既小京都の地小扱なり、當小東西控る心地、諸軍を列せし
臺地小推發一橋小本圓寺を攻抜んと、曉を待り、勅（こう）茲小將軍義昭公
ハ河原督一玉ひてより、秘の正月多うなれ、河原後の津盤き、夜小二日、早

朝、驅馬來りて、この好落ひ蜂起せり。此地小京都へ攻上るよし、浪伸あり、小將
さむひい、をべんと命を問もさ。此城被城より、驅使の急を告ること、
波の係り、機會生憎や、本元日の津禮東てのち、河原小公事出来、
さて、一日の未過るをうり、被下りて、歸らむ、然ども、守護の急、
の如くあり、これをこきせり、て拒抗せしむ。正月四日の早朝より、
本國寺外、面門寺中、通路を、分隊を、防衛せむ、むら、
小細川右馬頭藤原賢之、瀧大和守藤秀友、人々、大將を、
免さむ。諸樓門の、鐵回左邊將監、同右馬元、松島孫六、
小も五百有、余人、將軍河原の、間、我々、庫助、
駿河守、飯五、百、余、守、護、し、ま、ら、中、も、
者、形、を、變、率、大、將、を、令、せ、ら、ま、五、百、余、人、を、引、率、し、て、
四、通、茶、を、固、り、

遠事をもて江別ある。本下が神へ驅使せし。四日の申比下刻。本下の花御
 馳来り。書翰をりて細川右馬頭臨み告ていふ。運賊不意小蜂起と。本
 國寺は河新を越えし。切心願小無至る。藤吉部が今。天限不此神の公事
 就治と決。明朝ハ早速帰京とす。その間ハ清水寺あり。尚守の軍士を招り
 せられて。防衛をあてけり。と書り。なる小右馬頭。遠書翰の趣を披瀝不及び
 たてよる。將軍家小も最頼おしく。思召。秀吉が東上る小儀せも。清水寺
 の陣へ使者を遣し。尚守居の軍士を招き。とす。不當陣の尚守職たる。を
 竹中半兵衛重治。浅野孫兵衛長政。二百余騎。引て尚陣せし。秀吉より
 の書翰来至り。山徒の防衛を竹中。小直。浦計らひ申され。と書。東上りし。かども
 かく。將軍家より。の館使とて。之。測。助。と遣。え。され。運。徳。と。防。衛。を。と。た。し
 小。て。召。さ。せ。ら。ま。さ。ふ。わ。う。孫。兵。衛。小。陣。而。守。を。從。者。之。回。入。右。連。上。使。と。共。小

らも連伴。本國寺へ参り。り。り。の。半。を。衛。兵。一。個。多。く。將軍。家。小。も。不。審。お。が
 こ。こ。形。から。細。川。右。馬。頭。藤。賢。と。り。て。山。徒。退。討。の。計。畧。を。河。新。に。あ。せ。ら。る。小
 重。治。願。が。河。新。中。を。ま。つ。る。之。好。情。起。つ。ま。つ。て。あ。つ。て。の。外。の。大。軍。多。し
 然。れ。の。也。と。敵。あら。む。と。す。西。館。と。り。て。願。言。仕。せん。當。時。候。河。新。の。河。備。隊。と
 其。ま。と。し。時。と。て。就。誓。ひ。ま。わ。ら。る。敵。軍。が。何。と。今。ま。と。す。東。ら。ぬ。や。ら。ん。は。神。の。趣
 と。考。ふ。京。別。家。原。を。攻。陥。せ。し。萬。年。の。十。二。月。廿。八。日。を。ま。と。り。今。月。二。日。小
 兵。り。と。河。新。地。を。進。發。す。直。地。小。京。都。へ。進。む。と。河。別。を。乳。場。と。し。つ。る。あ
 西。徒。の。心。一。致。せ。ぬ。形。う。心。も。決。意。し。ぬ。と。軍。が。河。新。撥。集。し。こ。も。懸。議。小。と。こ。く
 ひ。あ。ひ。ご。漸。心。軍。と。さ。が。し。め。せ。と。解。理。詳。小。言。仕。せ。し。將軍。家。を。と。り。て。東。上。り。
 諸。將。も。亦。小。兵。小。も。同。意。し。了。符。小。來。下。が。尚。守。職。あり。徳。と。り。て。小。軍。將
 と。察。し。勝。敗。を。憂。へ。と。す。と。殊。に。孫。兵。衛。し。ま。し。て。東。上。り。指。揮。し。し。と。り。て。竹。中。小



本國寺合戦
赤野の
六勇士
野村の
陣中
1
か
る



稽せ至ひら。重治河越の台命を證で河奉東一たてまつ。一應内程の防衛
 指揮好し。然して本國寺の所分隊の領く空ゆ。さうして小本本坂の二十
 金騎を野村越中守が隊小當副哨号をのりて進進せよと録をて勤る
 當夜の言は刻報をころ最上魏と勇士六人野村が陣門小報来り拙者
 濃引武士少く赤野七舟左衛門因勇助六郎森保五八奥村平云左衛門波
 右勝右衛門坂井其左衛門と申者あり。進進の陣起て假所新と名をさし
 兼所り。馳登くひあり。と言宮りる小野村の陣。若や山徒の謀計をらん
 後追打さなると謂るを。竹中守重湯堂く制止。渠依のひも疑ひされ
 濃引者少く云々も違ふ。然心とくも輩多しと勧め小を停陣へ呼宮
 後進とらまふまふし。のりも勇侍の陣小を將軍家小所奏あり。さぞ満足小
 ながさる。遠隊小もて進進と拒抗を名し。まふ陣を種とて殿勤小を

養々小ぞ。六個の勇士大小教び羽之天へ俺們魁進して。高名せんとぞ院
 ける。程き當夜も覚満も。五日の早天小之好勢一万餘騎を長蛇小
 備へ大宮をのり小近通り。小方より推せし。戒をゆる螺鼓を鳴。縣親
 の群を列ね七大海を新が像く。本國寺を當て推進。這廻四通路小隊伍
 たる。野村が陣の先隊より。香院透間を放蕘正里小形く。さうして
 若狭の浪士内藤備中守重純。山源源内元金外野保七舟を
 どのふ者。最前野村が陣小加う。火濃の六人と一隊小ありて群競ふ。こ好
 勢の大軍と殊ともせむ。陰を拙く突扱し。前後左右小近進。遠勢威小
 こ好の先隊撥崩さる。遠進起て岩成見るより大小怒り。妙量の殿
 勢小近進さる。事やおる。中も提團一隊も金さる。段々捕や。喚をる。中
 自捨とわつ取て。正魁小進と戦へ。まふ山森十舟。なを以たを吉成と助

倭方ら。と。續く。新出關。小惣軍。食く。力を得く。統く。返く。新所。方せ。
 中。小捕圍。攻起。し。る。も。武勇。勝。ま。内藤。山縣。東西南北。に。新法。を。
 又。新利。と。け。と。ぞ。血戦。を。竹中。守。を。漢。あ。ま。と。見。ん。あ。ま。殿。を。形。と。指揮。
 ま。る。程。こ。そ。木下。勢。の。一。千。余。人。面。も。振。ら。だ。擡。く。揚。ぐ。火。想。せ。散。と。操。返。せ。ふ。
 た。び。こ。ま。小。勢。力。を。得。く。奥村。赤野。森。坂。井。先。や。面。ら。律。術。の。量。ハ。倍。ら。
 响。こ。そ。頭。を。ま。ま。進。め。や。ま。め。と。声。振。る。中。小。も。奥村。平。六。左。衛。門。尉。一。擡。
 の。二。間。槍。と。霹。靂。の。像。く。奮。輪。し。騎。士。致。卒。の。美。別。か。八。幡。座。小。ま。ま。幾。手。
 小。ま。ま。望。光。千。檀。地。尾。板。腕。膺。肩。腰。あ。る。小。信。也。堅。割。横。撞。捷。起。く。息。を。
 も。次。を。改。り。し。が。余。も。小。強。く。拵。き。し。る。陰。ハ。申。し。り。拵。と。折。り。を。力。を。大。振。を。
 を。る。所。と。敵。強。倚。り。む。と。組。む。奥村。平。六。の。大。力。あ。ま。六。面。倒。あ。り。と。の。小。信。小。
 敵。法。頭。小。惣。院。け。岐。形。と。一。声。外。び。が。首。撃。村。を。と。ま。さ。り。り。これ。小。方。ら。で。

坂。井。森。赤野。兄弟。波。を。内藤。五。郎。之。騎。づ。擡。付。斬。伏。獅子。奮。振。の。聲。
 小。敵。を。に。し。も。隠。さ。せ。む。一。擡。小。と。進。前。を。時。分。に。能。き。と。竹。中。が。指揮。を。
 運。し。と。一。千。余。人。二。隊。小。と。う。ま。て。核。際。より。新。石。の。多。殘。敵。寇。烟。の。下。より。一。隊。の。
 騎。馬。武。者。槍。陣。を。あ。て。突。殺。せ。し。る。こ。好。大。軍。等。と。い。へ。も。途。を。ま。ふ。く。
 敗。走。を。新。と。り。し。り。こ。好。下。野。守。政。康。新。隊。を。の。り。て。將。手。と。し。心。懸。小。
 進。ん。で。進。来。る。竹。中。こ。ま。と。能。と。見。ん。野。村。小。向。入。指。揮。し。て。繼。中。進。退。を。小。
 して。戦。事。軍。自。方。の。勝。利。お。が。つ。形。あ。ま。と。見。られ。し。敵。軍。の。退。く。影。を。入。
 う。め。ま。と。自。軍。の。小。勢。の。ま。ら。む。病。息。一。之。小。後。援。も。分。し。病。退。未。處。を。進。持。り。別。小。
 新。計。を。め。づ。ら。さ。む。や。と。務。ま。り。し。り。小。退。上。り。こ。好。政。康。こ。ま。と。復。ん。を。い。し。し。投。小。
 せ。下。と。指揮。形。し。朱。呂。と。進。退。し。る。も。竹。中。野。村。後。援。せ。し。る。新。所。方。難。か。し。
 退。退。て。城。を。守。る。く。潛。固。如。敵。軍。こ。ま。小。信。方。を。く。振。勢。を。り。ん。城。を。ま。げ。穩。



本國寺
合戦
赤野倚
勇戦



伊丹池田を以て所令か道を行き、渠依小瀬らきて隙ぞぐべし。去ら山越して急ぐんぞ、社惣郡を丹波へうち越山楳の國乙訓郡へ馳りし。五日に寅の卜刻、義継一隊ハ漸く小向の明神前へ人馬とて姑息をせ。継ぐる處へ池田元後も同豊後も、同丹波も、荒木信濃守、何れも著し。去る急げとて、同小京都を當て馳りたり。遠駒岩成之親助、諸不の援を、東を以て所、松河の軍勢馳より、容易軍あり。且、款備じりて、新截ハ自軍大小難危あり。只、義継とて、小道退るハ、其餘を思ひ、其間小本國寺を計らる。と謂、小山城守も同意して、一万余騎を二隊に分ち、乙好日向も同下野也。言成、去山、秋一小本國寺へ向を、岩成之親助ハ、乙好山城と一隊あり。乙好義継と退散さんと、桂川へ進發を、跡小留る、將軍令や、出所有ると、情おもと、徳恩を、さき、の、追り、待小時と移さんや、本國寺を、燒

ばけとて、五千の兵士、同小城をつり、假所當て推出を、茲小和田伊賀也。惟政ハ、播別、芥川小を、なる、運賊、京都を、移さんと、所を、や、大軍と、自勢の、よ、甲の、暮小、及、名、浪、芥川を、お、養く。五日の、日、中、過る、頃、山楳の國、西に、小、馳着、一が、遠、小、て、人、馬の、息を、休め、松別、の、所、家、人、を、情、合、を、ん、と、お、ひ、り、と、も、こ、そ、隙、小、運、後、依、所、所、小、次、投、君、小、車、あ、ら、ば、大、切、あり、所、時、も、終、極、を、難、し、と、自、勢、僅、小、之、百、余、人、未、の上、刻、面、の、圖、を、う、ち、起、て、本、國、寺、へ、馳、り、り、る、と、て、好、勢、の、五、千、余、騎、と、同、通、津、の、若、小、て、行、合、を、り。和、田、ハ、僅、小、之、百、余、騎、と、好、ハ、五、千、百、余、騎、の、大、軍、と、い、わ、れ、ど、も、此、も、擬、儀、を、一、秋、小、嚙、牙、を、突、て、投、利、強、の、綿、麻、を、薙、る、が、像、く。血、烟、起、り、戦、を、り。乙、好、方、の、五、千、余、騎、和、田、勢、の、音、を、正、央、小、單、と、一、人、も、刺、さ、り、と、磨、小、せ、と、播、起、を、と、和、田、ハ、名、小、盾、を、勇、ま、り、活、き、こ、り、雷、火、の、像、く。固、ま、こ、り、磐、石、の、像、く。然、も、長、途、の、疲、勞、と、い、ひ、終

四通路合戦
和伊賀守
危急



一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

驚く備く散れり。一、
 敵に大軍近づけり。二、
 後の恩義も忘る。三、
 たり。秘一万余と所下。四、
 の勇士。戦死する輩八百余人。五、
 遠响木下。原吉部。八。落行。出。後。七。退。亦。八。古。國。寺。九。入。下。十。將。軍。の。所。下。
 小。後。作。し。鐘。で。云。状。と。く。六。出。後。依。遠。く。落。矣。七。所。敵。合。八。一。人。も。都。小。前。
 いらね。九。所。心。寧。か。が。し。め。せ。と。東。一。上。二。小。義。昭。公。派。三。所。感。は。し。く。五。ひ。小。
 さ。多。信。長。の。目。付。と。一。守。護。を。せ。二。も。理。分。と。秘。三。木。下。が。智。謀。の。量。を。知。し。め。
 さ。も。て。賞。さ。さ。り。と。一。好。義。継。伊。丹。玄。康。將。軍。の。名。を。率。纏。免。
 本。國。寺。の。所。下。小。前。と。一。將。軍。の。名。を。依。て。賞。免。せ。し。き。田。原。日。京。都。小。前。

守護をたてし。一、
 そのま。や。ま。も。二、
 改。阜。城。小。在。一。と。一。今。歳。ハ。勢。南。を。伐。束。が。ん。と。一。三。準。備。を。做。し。四。一。
 正。月。五。日。末。の。刻。京。都。の。馳。馬。列。衆。一。二。好。の。凶。賊。蜂。起。し。七。教。方。の。軍。勢。都。
 一。推。進。合。戦。を。と。急。あ。り。し。と。一。三。信。長。會。館。一。と。一。
 一。推。進。合。戦。を。と。急。あ。り。し。と。一。三。信。長。會。館。一。と。一。
 直。地。小。駿。馬。を。率。せ。し。三。が。親。流。と。逃。奔。只。一。務。鞭。を。發。し。四。合。せ。一。散。小。
 平。日。より。斯。く。強。ま。る。事。を。好。ま。せ。し。五。性。質。を。三。大。喝。中。七。馳。至。小。
 之。里。計。も。未。し。し。頃。雲。時。と。馬。を。社。め。ら。三。息。次。ん。と。一。德。庵。より。紙。色。



信長
京都の
騒動を
聞く
火急
登らせ
たまふ
圖



のぞ取出し。勢をさるるせに。あ。と。よく。是を伺ふ。都の信使を。所。し。
 己に。略。小。向。く。も。せ。や。枕。中。の。飯。を。その。信。小。紙。小。う。ち。あ。け。齋。を。一。時。り。
 斯。北。の。中。の。う。ち。も。軍。小。熱。さ。る。大。將。の。ま。は。ひ。の。信。を。も。衆。人。の。勝。を。五。五。
 己。知。ら。ま。さ。る。落。び。馬。を。親。せ。る。ひ。當。夜。雲。の。刻。に。鐘。鳴。る。後。江。別。宮。小。
 若。玉。の。此。面。の。羽。織。今。宵。の。夜。小。休。息。あり。翌。日。瀬。田。を。地。お。ひ。信。三。小。京。都。の。
 再。び。馳。馬。引。来。し。凶。徒。一。端。所。小。推。寄。火。急。小。軍。を。こ。り。も。諸。士。よ。く。防。び。
 戦。ひ。一。夜。遂。小。舟。輪。邊。散。り。京。都。靜。謐。小。及。び。申。せ。告。ぐ。え。ま。の。小。信。長。の。
 或。の。安。途。一。あ。る。の。喜。悦。し。地。小。入。洛。と。さ。る。好。も。こ。も。人。馬。長。途。小。勞。れ。ま。い。
 ば。姑。く。こ。ま。を。休。め。後。辭。小。し。う。重。さ。ん。と。て。そ。日。ハ。瀬。田。小。止。宿。あり。七。日。信。長。小。
 乃。ぶ。こ。ら。信。長。本。國。寺。へ。参。詣。せ。ら。ま。て。將。軍。家。小。出。仕。し。合。戦。所。勝。利。の。詞。を。
 賀。し。た。ま。り。し。小。義。昭。公。も。信。長。の。神。速。を。入。洛。を。深。く。感。じ。合。戦。の。決。算。法。

士。の。不。勞。本。下。謀。畧。は。絶。倫。あり。ま。て。一。令。出。さ。ま。る。と。信。長。も。こ。ま。を。重。く。
 賞。し。殿。様。一。首。を。一。覽。あり。て。一。兩。日。に。信。長。か。ど。に。淺。尾。燈。籠。の。諸。軍。勢。を。見。ま。し。
 ら。を。入。洛。せ。し。ま。遂。小。九。兵。衛。有。余。人。と。覺。ゆ。然。ハ。此。勢。の。あ。る。ま。小。殘。軍。止。し。凶。徒。軍。
 を。悉。く。追。伐。せ。し。ま。一。こ。も。準備。を。ぞ。せ。ら。ま。さ。る。か。餘。小。好。方。の。一。族。ハ。三。条。或。は。桂。川。
 小。戦。死。員。數。大。知。ま。さ。此。小。一。と。東。列。を。ひ。た。還。く。こ。り。ま。り。こ。も。尾。瀨。江。
 大。軍。日。々。小。入。洛。せ。し。し。傳。令。今。ハ。決。り。も。及。び。ま。し。と。四。國。を。當。て。追。送。れ。ば。
 殘。黨。一。個。も。あ。ら。ざ。り。ま。を。茲。小。之。概。の。入。江。近。邊。存。び。凶。徒。小。一。身。せ。り。不。義。昭。白。あり。
 乃。は。早。速。京。都。一。味。上。せ。再。把。の。符。免。し。ま。遂。小。切。腹。を。ま。ら。し。一。信。三。不。義。士。小。將。換。
 と。和。田。惟。政。が。忠。義。の。我。功。言。語。を。り。て。賞。を。ま。れ。ま。し。公。の。褒。詞。は。熱。あり。け。ま。
 本。下。智。計。統。城。民。補。遣。官。屬。同。は。官。軍。
 刺。刺。爾。姓。を。長。し。已。して。龍。蛇。の。既。界。を。識。ま。る。の。譬。ハ。茲。小。泉。列。城。の。町。人。軍。を。

来ハ將軍家所再奥の河資助を斬りたくらんと積遠遣ハ送徒つゝこの好の
 一類小為撥く怨敵のみを顕し一末おれ狂らざる罪科小を赦すつれ道理は
 悪くこまを謀殺し公方の法度を兵さるべしと軍令を向んと有るを本小秀
 吉判しおわらせ諫言しと重き事。場の庄官候を罪りとも重しとておま
 智文旨の正まらざる。然ども頗富有る事。武意とてこま目の示諸人を殺
 持せしあらん今備渠候と攻めふとも一日片時小私治あまじた右の目殺
 うち小四國の凶徒加勢し来らばもとてぬを罷り及あらん將又將軍家の河
 代親小町人輩を敵とて。七易の軍一なる小澤親小河征奪し重き事。一
 多に東條小出も渠候を討つ。財宝とりて替中の河遠遣あらば小將軍
 河所の修理とて凡用途小免とせらる。河料理せむとておま言は
 是。信長とを所しめし。おま方の言候然ことあら。場の澤とりて城廓とて敵

對の色を顯はせおまの町人軍がも財宝とて。村中抑當の用途小を
 さんや他一謀ふ事ありや。と訊ね小本下然此我小能く。此と。謀り方
 便の。小長小河征せあら。兼も。河威光とて。河用途と
 全。調あひあり。と。逃く重き事。信長も。主張さく。おま。尋常
 あらぬ本下の。おま。と。諫言。至らざる。秀吉如意の計策せり。と。場の町人の
 首領も。輩を捕。と。罪科と。責と。おれを死刑と。定めらる。石山も。願書の
 願書と。町人輩を憐も。多し。教方。兩の。令。信を。捧ぐ。渠候。今。と。て。せ
 け。小本下。おま。奇計。と。り。内。程。抑。當。再。奥。の。用途。と。就。せ。と。て。町人。軍
 の。首。代。を。已。て。暫。時。不。殺。す。と。の。令。信。を。調。ひ。場。の。町。人。を。赦。され。と。これ。小。使
 すが。將軍。河。所。の。修理。作。事。を。創。む。と。せ。と。信。長。限。り。お。く。教。び。と
 ま。ひ。信。長。言。ふ。が。遠。遣。の。奇。方。武。家。一。族。の。費。小。を。お。ま。と。て。重。き。事。有。ら。ず。と。感。賞。し。

織田殿錢財を
りんと堀の街民の
罪科と贖いび



豊臣記三編

豊臣記三編



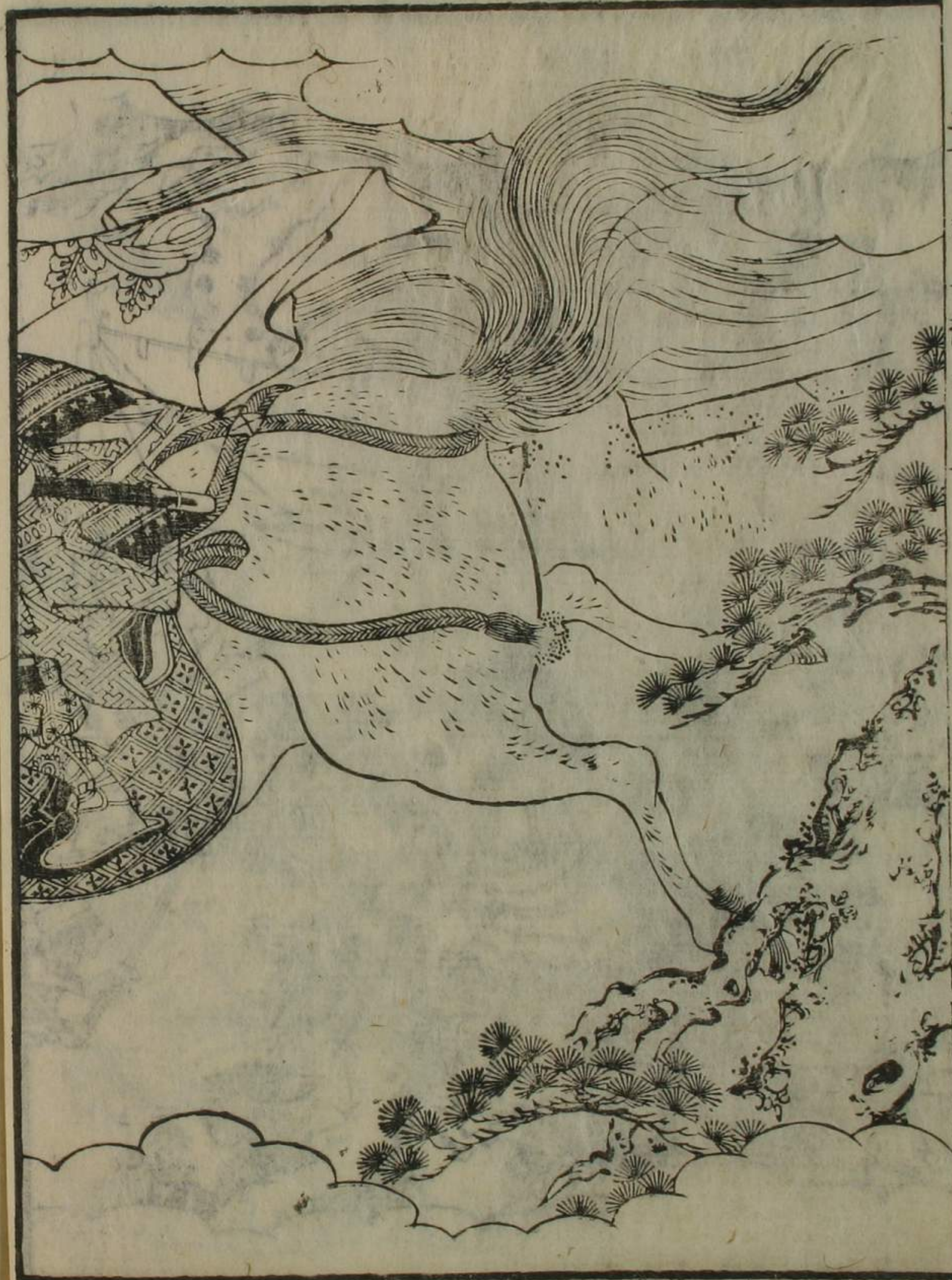
た多し所日所所の遠管を詞嚴小令せらる成統の日子へ信長小も都小道
 而あふ一と二像妙覺寺小在陣一玉ひ万事を合せ出されり。頃ハ二月
 廿七日淋細の式ありて又より思を白小継かどに修理を急を多ひり。奉行
 ハ村井民於丞鴻田不之助友人多。教地ハ赤東の所不讀と東西ハ一町づ
 徑園バカ士とりて地鎮せり。又小印列の淺井備前守長政ハ之好輝起
 の信仲と所といひて上洛ハ所不の守衛小直奉ハ之と信長ハ不敵ハ
 身ハ遠道柳管修理不けき淺井家より人持と加勢ハたまたまハ之頼
 せり。又小長政ハ異議多しことを兼務也。東山清水寺小宿陣ハ日小
 人持と出さる修理と披帯をとりども。又遠管ありり。人丈と勞せり
 事ハ多し。たよりしうらさる由へ信長諸士を集めらる。今もされり。今ハ戦
 場小降て思をたむも。土木を運びて功をたむも。公方小錫と勸方の衆

あること更ふし。所所の遠管作事の緯を人持小のともはせを。數日
 小及ふりけり。獨り知らむ。蕭牆の内小起。一。雪むら。月分。將軍
 借小らち。玉石を運び。行時も。進く。成能せ。先ハ將軍と。後ハ衆
 ら。そこを。信長。軌。花。と。出。て。赤。色。の。小。神。小。赤。地。の。緯。の。建。壁。
 脛。前。軍。體。より。一。石。杖。木。と。運。び。て。紫。田。佐。久。向。木。下。坂。井。
 丹。羽。森。茶。田。の。懸。々。衆。あり。ひ。く。小。は。衆。ハ。人。持。小。混。と。繩。カ。ー。け。と。
 淺井家の諸士も。細く。小。思。び。と。家。事。諸。士。も。て。物。は。常。小。赤。地。内。家。の
 諸士も。あ。り。行。石。杖。木。と。運。送。せ。り。然。る。小。玄。系。ハ。別。之。角。の。さ。り。小。
 善。作。和。田。山。と。取。の。さ。り。淺井家。諸。士。も。て。觀。音。寺。の。城。と。雁。防。
 くる。と。信。長。も。信。長。も。思。ひ。一。也。楚。と。於。鹿。心。せ。り。し。ハ。鐵。回。
 家。の。諸。士。連。こ。も。思。ひ。一。也。思。ひ。淺井。の。名。の。さ。り。武。士。小。ハ。將。軍。と。り。小。衆。衆。



織田茂井の
 駈卒輩
 運土の
 場
 騷動を





豊臣評三巻三十二

十二

ありと誹謗し止むる時なき。遠道両家の名士は速うも手入して未運びと
 枝部うち中部の習として織田家の名士はく小浅井の侍士と侮り俄んど
 泥土の如く罌果を然とも信長赤装束少く出らまゝも小浅井は
 諸士達休く時ぐ所ぬ頼り織田家の名士圍小を多く我を捕ひ
 りて急う小信長より浅井柴田森佐久間の兵士小命出さるる漸下の
 總構を穿せり浅井の居る之田佐右衛門が部の名と柴田佐久間が
 使車半と先鋒の悪口を過して争論小及び之と田佐右衛門は
 より。名念を訴へたりし遠道論を諍ありと悪口たる柴田佐久間の
 駿卒を散く小打擲し是は織田家の名士休うも致馬は槍槍ありと母命
 槍長刀を打出。突合斬合なりしは小謀じきさ変事あり浅井の
 勢いあまされとも恨一箇小頼らるる命を棄て斬果し。江別武士の勇を顯

えし恥辱を雪んと恩徹怒氣十分小備は是は陣の結多小織田方大勢
 ありとの一にも遮り休て敗走を浅井の公士追蒐く。遠隔小斬休角小
 伏江別者の修練を見たり。織田武者の界怪さよと罵り母を遂ふかに
 柴田佐久間の陣をきて只一捲小追追らる。篠原信盛こそを恨て眼を
 し。逃去まづら槍を退投て浅井の使車と擲返を森三左衛門も親の
 柴田佐久間とをどめんよ自勢を率へ出りしは勢いの止まらぬや思ひけん
 同く礼をて戦う。浅井が隊よりも遠藤義右衛門の中津日向守徹を
 とめんと為しされども佐久間柴田が勢はさふ詮方々。自方の老を是
 がごとく共小強合戦ふ。遠駒信長妙覺寺小をじて遠發動とに
 大小構に玉ひつ。使車の悪口たるハ尋常ありとを信士輩のどをけ好く
 撃起く大事小もよ。漸下道量と跡小せし傳を奔事極至極ありと

つら出て決断せんと怒らざるふむ藤吉身許ゆこまつりたふつら若の漸身
 小能くしく瀬々の場(主)あふ八部て事々をむ小能く。小臣漸使こて出向ひ
 事務便小鎮む。こ。者吉身只單務本陣を馳出らる。尋常小へ割
 一と禁中(復)傳奏小能く。信長の臣亦下孫吉身少てけ。漸
 飛遠官の人技業不意の突陣を發せし。こ。容易に成ぬて。此思ふくハ
 此(正)勅使のよとせりて。これを乗後(正)は。下。漸許を願ひ奉る。奏
 問。主(正)ま(正)し。と言休せ。六早速小。極に披露せり。亦下。願ひ許妙
 形。漸許ありれば秀吉大。小。脱去。内裡を出入。駿馬小鞭うち。關
 降の場(正)島地小。並著し。こ。も一天の王は勅使。を。双方も小。關降を止り。
 謹く奉聞と大音聲小。年。より。小。王女。の。王。后。多。勅使の。を。所。より
 も新量斬合。並。が。忽ち。た。た。へ。分。を。檢。刀。伏。て。指。地。を。亦。下。再。以。申。す。

謂やう勅宣の漸使る。こ。下馬。い。こ。ぬ。者。小。奉。所。其。方。軍。の。在。系
 八升何の爲る。そ。非常。を。戒。免。糧。籍。を。禁止。王。城。守。護。の。役。多。ら。ず。や。
 之。を。軍。法。度。を。犯。同。士。軍。を。法。や。あ。る。日。ハ。禁。中。御。營。修。理。の。之。免。小。
 向。新。骨。を。緇。こ。終。の。旨。聞。より。其。傷。小。と。事。疎。忽。と。の。旨。馬。形。を。
 發。く。遺。恨。を。散。り。和。睦。を。な。し。て。所。願。後。官。の。忠。勤。を。懋。め。れ。は。論。乃
 始。末。の。仇。を。及。む。は。元。より。を。親。の。際。り。海。外。中。意。も。な。る。べ。し。あ。ま。亦。より。て
 穿。議。の。下。漸。宥。免。こ。宣。旨。多。り。將。軍。家。小。も。同。族。の。旨。多。り。と。演。れ。た。ま。は。り。
 濱。井。長。政。も。出。來。り。亦。下。秀。吉。小。應。對。て。骨。に。家。人。依。が。幸。論。の。義。恥
 入。て。惟。多。り。宣。旨。の。漸。使。を。帶。る。條。眞。加。の。お。ど。怒。り。く。好。し。こ。ま。つ。り。亦。下。僕
 軍。の。旨。の。漸。外。を。受。る。こ。も。更。小。重。分。の。免。却。て。寛。宥。の。漸。沙。法。小。願。り。
 重。々。あり。ご。く。詳。謝。す。此。漸。恩。を。お。り。ひ。な。バ。漸。修。理。御。等。爾。ら。は。長。政

殺^{ころ}らる^らる^るは^は得^えず^ずも^も。鐵^{てつ}田^{でん}殿^{でん}の^の所^{しよ}妹^い小^{せう}親^{しん}と^とせ^せし^しる^るは^は一^{いつ}家^けの^の縁^{えん}淡^{たん}く^くら^らる^る事^{こと}の^の
 何^{なに}と^と異^い心^{しん}は^は産^う死^し初^{はつ}終^{しゆう}の^の所^{しよ}請^{せい}を^を命^{めい}の^の所^{しよ}言^{げん}よ^よら^らく^く願^{ねが}ひ^ひ奉^{ほう}る^ると^と誤^{あや}ら^ま
 伸^の々^のま^ま六^む六^むの^の武^ぶ士^し達^{たち}も^も。惡^{あく}懼^くく^く退^{たい}糸^{いと}一^{いつ}け^け。木^き下^か八^{はち}本^{ほん}陣^{じん}へ^へ奉^{ほう}と^とし^して^て和^わ睦^{ぼく}
 の^の傳^{でん}を^を云^い状^{じやう}し^しれ^れば^ば鐵^{てつ}田^{でん}殿^{でん}又^{また}亦^{また}感^{かん}悦^{えつ}せ^せら^らま^ま。褒^{ほう}賞^{しやう}殊^{じゆ}小^{せう}淡^{たん}く^くら^らる^る事^{こと}の^の

繪本豊后勲功記二編卷之二終

